

登録No.
登録名
催吐性リスク
適応疾患
投与スケジュール

S-108
Pembrolizumab/GEM/CBDCA療法
中等度
乳癌

	薬剤	投与量	最大投与量	投与日	投与経路	投与時間	備考
Rp.1	ペムプロリズマブ 生食	①200mg/body ②400mg/body 100mL/body		d1	d.i.v.	30min	0.2~5μmのインライン フィルター使用
Rp.2	生食	50mL/body		d1	d.i.v.	全開	ペムプロリズマブ フラッシュ用
Rp.1	パロノセトロン0.75mg ^ハ ッ デキサメタゾン	50mL/body 9.9mg/body		d1・d8	d.i.v.	30min	
Rp.2	ゲムシタビン 5%ブドウ糖液	1000mg/m ² 100mL/body		d1・d8	d.i.v.	30min	60分以上かけると副作用増強の おそれあり
Rp.3	生食	100mL/body		d1・d8	d.i.v.	全開	ゲムシタビン、カルボプラチン フラッシュ用
Rp.4	カルボプラチン 生食	AUC 2 500mL/body		d1・d8	d.i.v.	90min	

1クールの間
その他
(副作用・PS規定等)

ペムプロリズマブ：①3週間、②6週間、GEM/CBDCA：3週間

注意：PDL-1陽性（22C3で検査）のTriple Negative乳癌に使用
注意点：ゲムシタビンは60分以上かけて点滴すると副作用増強の可能性あり
ペムプロリズマブはインラインフィルター（0.2~5μm）付きルート使用
ペムプロリズマブは最終濃度を1~10mg/mLに調製
ペムプロリズマブを6週間で投与する場合は投与日に注意

臨床試験（Keynote-355試験）患者選択基準
Neutr \geq 1500/ μ L、Hb \geq 9.0g/dL、Plt \geq 10万/ μ L、Alb \geq 3.0g/dL、T-Bil \leq 1.5 \times ULN(T-Bil $>$ 1.5 \times ULNの場合はD-Bil \leq ULN)
AST/ALT \leq 2.5 \times ULN（肝転移を有する場合はAST/ALT \leq 5 \times ULN）、Scr \leq 1.5 \times ULN（Scr $>$ 1.5 \times ULNの場合はCr \geq 30mL/min）

抗凝固療法を受けていない場合：INR又はPT及びaPTT \leq 1.5 \times ULN

抗凝固療法を受けている場合：PT又はaPTTが治療域の範囲内

副作用：骨髄抑制、悪心・嘔吐、食欲不振、下痢・便秘、脱毛、倦怠感、肝機能障害、浮腫、
間質性肺炎・大腸炎、小腸炎、神経障害（ギランバレー症候群等）、劇症肝炎、肝不全
肝炎、硬化性胆管炎、内分泌障害、1型糖尿病、腎機能障害、肺炎、筋炎、横紋筋融解症
重症筋無力症、脳炎、髄膜炎、血球貪食症候群、結核、infusion reaction、ひどろ膜炎など

【更新】：2023.3.10 遺伝子基準の項目に22C3で検査の文言を追加